

足尾地域“まちづくり懇話会”会議録

日時：平成 29 年 6 月 26 日(月) 18:00～20:00

場所：足尾行政センター 会議室 1・2

- 次第：1 開会 足尾行政センター所長
2 挨拶 日光市長 斎藤文夫
3 内容 (1) まちづくり懇話会とは
(2) テーマ「高齢化対策」について
(3) 意見交換
4 その他
5 閉会

《意見交換内容》

参加者：今から 30 年、40 年前だったと思うのですが、夜明けに帰って来ますと、3 時頃お年寄りが歩いているので、びっくりして聞いてみましたら、近くにある物置を利用して、ストーブを付けお湯を沸かして湯気を出しながら、きのこづくりをやっていたのです。ヒラタケというきのこだったと思うのですが、最初は出ないので悩んでいましたが、そのうち少しずつ出始めまして、近所の方たちに配っていました。聞いてみましたら、行政だと思うのですが、指導者をお願いして、足尾できのこづくりをやってみようかということで、成功した例があるのですが、その人たちは現在ほとんどいませんが、あの頃、気を張って張り切ってきたこの小屋に通っていた姿を今思い出しますと、こういう生きがいづくりもあるのではないかなと思います。私もおかげさまで、そろそろ対策を受けさせていただくような年代に入ってきましたが、張り合いを持たせるというようなことで、勝手にやればいいたろうということになるかもしれませんが、やはりあれから随分経ちますから、指導者がいないとできないのかなと思います。詳しい方を紹介していただきながら、なんとかお年寄りが少しでも働ける、そのような場を作っていたいただければなと思っております。ちなみに中学生では、市長さんのおかげで、まちづくりでイチゴづくりが行われております。子供たちも張り切ってやっていますし、大学の先生もほめているようであります。子供たちより、私たち年寄りがそれをまた楽しみにしているという状況もありまして、若手と年寄り、それぞれの立場でものづくりをやっていけたらなと思います。

市長：ありがとうございます。市のほうでそういったことに対して、支援の方法はあるのかということでもよろしいですか。

参加者：はい。

地域振興部長：場所の問題はさておき、高齢者の方の生きがいづくりのために、何かビジネスプランとなるものが仮に描けるとすると、非常に有効だということは全国的な例にも見受けられます。例えば、徳島県上勝町の葉っぱビジネスが有名なのですが、2 億円市場と言われて

おります。これは、注文に応じて高齢者の方たちが裏山などにある葉っぱを集めてきて、それを商品化して販売ルートに乗せ、料亭などの彩に使用されるというものです。これが収入に繋がるため、高齢者の方の競争意識まで喚起し、また生きがいにも繋がるという相乗効果をもたらしているケースがあります。栗山地域では、今、シカの被害が深刻で、やむなく駆除をする場合があります。処分の過程で皮が残るので、その皮を廃棄するのはもったいないということで、市外から移住した若者が、東京の業者の力を借り、皮をなめして財布などの製品にしようという取組を始めています。市のほうからも、それに対してソフト面での助成ができないかと、支援を始めているところです。それは、高齢者の方が、例えば、皮を製品化するという部分で関わりができ、自ら作ったものが商品化されて売れるとなると、幾ばくかの収入が得られるため、まさにビジネスプランに繋がるという意味で言うと、非常に効果的であるといえます。先程お話がありましたきのこづくりについても、昔の経緯はわかりませんが、できれば協働という視点から自ら動き出しができる団体が結成され、そういったビジョンがまとまってきたときに、市のほうで何らかのお手伝いができるのかなと考えておりますので、まずはその辺のきっかけづくりを始めていただければと思います。

市長：ぜひ、頑張って組織をたちあげていただきたいと思います。

参加者：私は、独居高齢者の見守りということと、銅やまなみ館で行っている健康体操などは、社会福祉協議会との連携ではないかと思えます。それを自治会として協力しながら、進めていきたいと思えます。役所の方もお見えになっていますし、いろいろ連携を取っていますので、そういうことに自治会としては協力していくというかたちで、今後も大事なものではないかなと、広報などもしていきたいと思えます。一番お願いしたいことは、買い物難民のための足の確保ということと、免許証の自主返納に対しての補助の確立で、先日の下野新聞に鹿沼市のことが出ていましたが、市営バスの生涯無料とか、そういう方法なども市で考えていただけないかなと思えます。足尾の場合、免許証返納者はとても足に不自由することが多いのです。そういうことを考えまして、提案させていただいたので、検討よろしくお願ひします。

健康福祉部長：最初の見守りと、健康体操についてですが、市も一緒なのですが社会福祉協議会を通じて、福祉のまちづくり委員会という組織があります。各13生活圏域にあり、足尾も1つの地域として入っているのですが、その中で、居場所づくりを皆さんテーマにされて、あと地域の課題ということで、どういったことができるか、自分たちの地域の課題は何だろう、それに対して自分たちは何ができるのだろうかということを、話し合っていたく仕組みを、全市的に今行っているところです。今日も関連の会議が午後あったのですが、足尾の取組みというのが、事例発表の中で出てきたのです。福祉のまちづくり委員会を中心に、お宝マップを作っていくということで、たまり場調査と実態調査というのをされています。自治会単位だと思のですが、たまり場がどんなふうにあるか、その中に70歳以上の高齢者の方が、独り暮らしなのか、ご夫婦での暮らしなのか、非常に細かく調べていただい

るということでした。それを合わせて、お宝マップとして、自治会ごとに対策を考えていくという取組みをしているというのと、居場所づくりとして、貯筋アップ体操をする場、銅やまなみ館などを使って開始されたということ、今後、上間藤のほうも実施につなげていくという話をしていただいたのですが、まさに今、市と社会福祉協議会と一緒に目指していることは、そういったことなのです。まさしく先進事例として取り組まれているということで、改めてその話を聞いて認識したところなのですが、そういったことを少しでも多くの自治会に広めていきたいなということで、見守りもそうですし、貯筋アップ体操やお茶飲み場という感覚でいいのだと思います。そういったことを広めていきたいと、今取り組んでおりますので、ぜひ、先進事例としてどんどん進めていただければありがたいと思います。

市民生活部長：私どものほうは、公共交通関係を担当してまして、この後も何件か同じようなご意見がありますので、小出しにさせていただきたいのですが、買い物難民に限らず足の確保という点で、この地域の皆さんはかなり関心が高いということは、先だってアンケートを取らせていただいて、そのような結果がわかっております。各自治会長さんには、今年になってから公共交通のあり方につきまして、ご意見もいただいております。その際にもアンケートの内容は、ご覧いただいたと思いますが、この地域全体の足の問題ということで、地域で一番何を望むのかということに行くのかなど、今、公共交通のバスも走らせておりますが、やはり一番需要が高いのは、現状では通院する方が7割から8割という結果が出ております。現状では、皆さん頑張って自力での移動をされているというような結果となっております。これは、市内全域同じような傾向であります。特に足尾地域が、そのような傾向が強いということでもないと思います。この地域で何が一番必要なのかということ、ご相談しながら考えていきたいと思っております。それから、免許証返納の補助ということですが、これも結局はそういうところにつながっていくのですが、現状では、わずかですがバスの利用券など交付させていただいております。ただ、これも全市的に言えることですが、使っていただける方は3割から4割程度という現状がございます。あれば乗るのかということでもないようなところも見えております。詳しいデータはないのですが、わたらせ渓谷鐵道は、この免許証返納について、確か割引をやっていただいていると思います。大きな意味での高齢者対策の中での交通といったことを、今後も地元の皆さんとご相談しながら進めてまいりたいと考えております。

参加者：私たちも、免許証を自主返納して交通の足がなくなる問題を相談したりしているものから、よく検討していただきたいと思っております。鹿沼市では、バスが生涯無料とかありますので、お願いしたいと思っております。

市長：鹿沼市のことが新聞に載りまして、中身はよくわかってないのですが、返納した人だけが無料というと、同じような高齢者はどうなのだろうかということもありますので、やはりそういったことも一緒に考えていかないと、不公平な補助制度になってしまうので、今、いろいろご提案いただいておりますから、市営バス、わたらせ渓谷鐵道、タクシーなど、そういうも

のを含めて、制度の見直しをかけていくことになりますから、鹿沼市の例も参考にさせていただきながら、より有効な制度を構築していきたいと思っております。

参加者：見守りについてですが、情報の共有化は、自治会長は何でもかんでも知っていなくてはいけないということではないのですが、市から届いた1つの文書で感じたのですが、避難行動要支援者等の名簿が毎年届くのですが、これは個人の秘匿性の義務などがありまして、鍵のかかるような場所で管理してくれということと、コピーをしないで欲しいと書かれております。自治会長としてこういう要支援者がいるのですということ、自治会内の人に知ってもらうためには、火災訓練や避難訓練などの時に必要になってくるのです。コピーをするまでにはいかなくても、役員が10人ぐらいいるのですが、その中に知らせるためには、ある程度の名前をあげなければなりません。それと、この要支援者については、外観から見るとスポーツもやる、運転もする、農作業もやったりして、我々よりも丈夫な人ばかりなのです。いろいろな役の人もしらっしゃいます。資料は届くのですが、この調査した結果というのは、平成26年にきたものですが、何年に1度調べているのか、どこの機関が調べているのか、そういうことがわからないわけです。私もどこへ行ってどう聞けばいいのか、市の説明がないのです。個人の家で、孤独死した人もいたのですが、家族に連絡しようとしても、連絡が取れないのです。そういうときはどうするのですかと聞いたら、民生委員に聞いてくださいというのが担当者の答えです。そういうことから、ここにいろいろなことが書いてありますが、申し上げたいと思います。集う場所につきましては、前は草花などを自分の家に植えたり、育てたりしていたのですが、今は、シカやサル、タヌキなどがいるので、やっても無駄になってしまうのです。花を見て楽しむとかができない状態です。あと、地域内にそれぞれ指導者のような人がいるのですが、お年寄りになってしまって、なかなか人の世話をやくことまでいかないというのが現実です。交通手段につきましては、去年市がアンケートを取っていただいたとおり、約7割近くの人が、今、自分の家に運転する人がいるとか、近所にいるとか、頼める人がいるということで、今市や日光は3割ほどといっていますが、今のところはなんとかやっていけるのではないかと思います。双愛病院に年中通っている人は、タクシー代が往復すると相当かかるらしいです。上の平は県道から50メートルくらいの平らな土地に住宅があるのですが、その坂がとても急なので上り下りが大変なのです。バスの停留所は下にあるのですが、わたらせ渓谷鐵道は間藤駅が近いので、そこまでは何とか行けるのですが、帰りが大変です。自分たちができることというところでは、やはり生涯学習を推進していかないといけないと思います。個人で趣味やいろいろな技術をもっている人がいるのですが、なかなか表に出ていただけません。足尾は、よく陸の孤島と言われましたが、自分自身が引っ込み思案になってしまうので、少しでも多く情報を得たほうがいいのではないかと思います。市が行うべきことは、特に私が望んだわけではないのですが、生涯学習を推進する体制、公民館の講習科目を増やしてもらいたいとか、講習内容でも、習字のように添削してくれるようなシステムがほしいのです。習字は朱墨でやってくれますので、他の部門でもそのような受け答えができるような講習をやってほしいです。それから、人材バンクに登録されている方もいると思いますが、そういった方々を多く活用していた

だいて、費用がかからないようにお願いしたいです。あと、地域おこし協力隊の方がいらっしやるのですが、昔の話を聞いたり、民具を調べたりするのが目的ではないと思うのですが、そういうことが印象に残ります。村おこしだから、極端な対策を考えているとかではないのですが、雇っているからには活躍させたほうがいいのではないかと思います。あと、プロの音楽家や芸能を呼んで来て、刺激を与えていただきたいと思います。あと、これから納涼祭があるのですが、足尾の踊りの原点は八木節と言われているのですが、日光和楽踊りに行き来していたのですが、わざわざ見に行く人もいなくなっていました。できれば、そういう踊りなどを足尾でも見せてもらいたいと思います。あと、生涯学習をやった成果を発表する場、芸術祭などがあるのですが、なるべく発表する場を設けてもらいたいと思います。公民館事業の講習で教材に費用がかかるのがありますが、大沢公民館で開催された絵画は、材料だけでも2、3万円かかるのです。行こうと思ったのですが、教材費が高いので行かなかったのです。そういった教材費の面倒も見てもらいたいということです。その他では、道路、交通、防犯の強化です。それと、市営バス、タクシー、わたらせ渓谷鐵道の経営が上手くいくように、よろしくお願いしたいと思います。認定こども園は、今1カ所あるのですが、空き地等もだいぶあるので、できればもう少し広い場所に造ってあげたらいいのではないかと思います。高校生が足尾から通っているのですが、毎朝送り迎えて親御さんが大変なのです。できれば中間地点に寄宿舎でもあればいいなと思います。食事の件ですが、通洞駅で降りた人に、よく食事をする場所はないですかと聞かれます。皆さんお店を閉めてしまったので、なかなか案内もできなくて大変なので、食事ができるようなところを考えていただければと思います。あと、消防団員の確保ということで前から要請されて、足尾は65歳以上でもやれるということで、私も支援団員をやっておりますが、消防職員は退職してもOBでやれないのです。機能別の部門だったらやれるということで、私より若く辞めた人が相当いるのですが、そういった人たちを勧誘するようになっていただければと思います。

副市長：最初に総括的なお話をさせていただきます。たくさんのご意見をいただきました。きっとこの足尾の地域の中には、こういう課題が顕在化してきているのだろうと思います。そのような中で、1つお願いしたいことは、行政に要求だけするのではなく、皆さんたちができることも整理してもらいたいと思います。自分たちがしなければならぬことやできることは、皆さんが持っている力でやっていただくと、ただ、それを超えるものについては、行政が支援をしなければできないと思います。そのところの役割分担をきっちりとお話合いの中で明らかにしながら、荷物を分け合って物事を解決していきませんかということなのです。是非、そういった視点から、解決策を見出していただければなと思っております。個別事項については、それぞれの部長からお話させていただきます。

健康福祉部長：1番の避難行動要支援者の名簿についてですが、確かに個人情報の関係とかで、保管などいろいろな縛りがあるのは事実です。担当とやり取りをされていると思うので、話はわかった上でだと思いますが、使いにくいという話はいろいろなところで聞いていますので、法律で決められていることを超えてというのはできないのですが、実態に沿ってどこ

までできるのかと、そこはよく考えていきたいと思います。それと、認定こども園の話ですが、市のほうで移転するというよりは、こども園として適当な場所があって、そこが使えるのだということであれば、ご提案いただければ検討できると思うのですが、なかなか市のほうで、新しく造るとかは難しいものですから、その辺の情報をいただければ、一緒にご検討させていただきたいと思います。

教育次長：生涯学習についてですが、推進体制や公民館事業の講習科目を増やすとか、たくさんのご提案していただきました。毎年、足尾公民館で実施している講座等につきましても、やっていただいた方のアンケートも取りながら、メニューを決定させていただいているところです。まずは、私どもでできることから取り組ませていただきたいと思います。芸術祭などは今もやっていると思うのですが、文化協会や公民館と連携を図りながら、その辺のところも研究させていただいて、1つずつ今どうするというお答えはできないのですが、できることからやりたいと思います。

消防長：消防支援団員のご意見をいただきましたが、その中で支援団員ですが、若手の消防団員等は、日光地域とかに働きに行ってしまうと、日中留守になるところを支援団員の方々が活躍をさせていただいております。やはり消防団につきましても、コミュニティという面でも重要な位置づけになっていると思います。加入促進のご意見ですが、1つは支援消防団員の活動をしているときに、一般の方々と見分けがつかないというご意見をいただいております。この方は支援団員とわかるような服装を検討しております。もう1つ支援団員については、条例で団員としての経験を有する者ということで、会長さんは消防団をやられていましたので、支援団員として活躍されているということです。条例の改正ですので、団員としての経験を有する者、そこをもう少し裾野を広げると言いますか、消防職員の方々も支援団員として入っていただけるような条例の見直しを、議会の皆さんの協力もいただかないとならないのですが、その辺もこれから検討していこうと考えております。

市長：条例改正は、別に難しいことではありませんから、現実にあったように必要であれば改正していきます。それと、地域おこし協力隊はテーマを持ってやっておりますが、やはり皆さんいろいろな話をして、必要なことに取り組んでいくことは可能ですから、行政センターに相談していただきたいと思います。

参加者：たくさん言いましたが、全部市にやって欲しいということではないのです。それは、我々の税の負担に関わってくるので、そういうことは求められないと思います。ただ、先ほど言った文書規定があるのですが、文書の中に事務連絡とかいろいろ書いてくるので、事務連絡というと粗末に扱ってしまうのです。その内容を見ると、秘匿義務があるとか鍵のかかる場所に保管とか書いてあるので、捨てなくてよかったと感じているのです。これから、避難訓練や消防訓練があるので、近所の人たちも理解していないと、活動ができなくなってしまうのではないかと思います。

参加者:見守りについてと、集う場所について赤沢地区ではこのようにやっていますということと、交通手段の買い物、通院についてですが、デマンドバスがよいと思います。小来川、落合、猪倉地区について見せてもらったのですが、こういったものを足尾でも取り上げていくといいのではないかと思います。そのためには、自分たちができること、協働作業ということで、やたらアンケートを取るのではなくて、この人だったらわかるかなという人に、自治会長や民生委員がよく意見を聞いて、交通手段の時刻表などのデータづくりが大切かなと思います。現在のバスを小規模のバスに転換するというので、特に日光～足尾間のバスです。現在のバスでやるならば、停留所をさらに増やしていけたらと思います。タクシーのように手をあげて乗るといいのではないかと思います。乗る人はだいぶ少なくなっていますから、そういうのもありかなという感じがします。ステップ付のバスが2台になったということで、そのことについては感謝しております。3月7日に足尾地域の地域交通を考える座談会に出席しましたが、その結果を検討されているのかなと考えました。先ほどもありましたが、通学者のバスが足尾～日光まで1,000円以上かかるので、とてもバスを利用する気にはなれないと聞いております。こういうことをやるにはアンケートなど情報収集がとても大切ではないかなと私は思います。その情報収集によって、よりきめ細かないいまちづくりができて、いい方向にいくのではないかと考えております。その他で、毎年実施されている健康診断の健康項目に、認知症チェックを入れてもらってもいいのではないかと考えております。島根県では、認知症のチェックをパソコンでやっているのをテレビで見ましたが、そういう方法でもいいと思いますが、いずれにしてもチェックをして、早めに認知症兆候の人を調べていくのも必要かなと思います。

市長:認知症チェックは、可能かどうか検討させていただきます。

市民生活部長:交通手段の関係ですが、デマンドバスがいいだろうというご意見は重々お聞きしまして、先ほど申しましたように、この地域にどれがいいのか、今後もお相談させていただきたいと思います。ただ、小来川、落合、猪倉地区のデマンドについて、今お持ちの資料ですが、デマンドという万端という印象をお持ちかと思いますが、定時、定路線で予約制ということになっております。いつでも、どこでも来てくれるというものではないのです。そこは、その地域にどういう方式が一番いいのかというのは、選んでいかなければならない、そして、民間事業者もそこにはいらっしやいますので、そういった方々との調整も必要であります。同じようなことになってしまいますが、この地域で何がいいのか、誰を一番優先して救うのか、全部が全部というのは、おそらく無理だと思いますが、将来的に皆さんご負担があることはわかっておりますので、そこは、まず一番何からやっていくのかということを考えていただきながら、一番いい方式を選んでいくというのが、いいのではないかなと考えております。バスの路線や本数につきましても、すべての面で選んでいかなければいけないというようなことでございます。座談会の件ですが、お話いただいた結果、これは選択制でしたので、全部が全部ということではないのですが、一番ご意見が多かったのは、自力で移動することが困難な方に対する福祉タクシーの充実というような項目が一番多かったようでございます。やはり、そういった弱者の方の支援が一番優先なのかなと捉えてお

ります。

参加者：2つ出させていただいたのですが、せっかくやるのであれば、私たち世代の方や、もっと若い方とか、全体的にひっくるめて案として出させていただきました。1つ目は、バスの運行本数を増やしてほしいということです。家の近くのバス停の時刻表を見て見ましたら、10本あるかないかくらいなので、もう少し増やしていただくと、例えば高校にあがった人たちとかも、日光の駅に出やすいのかなと思います。やはり、ご両親がお勤めのついでに送迎したりと聞いたりするので、その辺が軽減できるのかなと思いました。あと、料金を安く設定しなおしていただければ、もっと活性化するのかなと思いました。それと2つ目の講座の充実ということで、高齢の方がある講座に何日か来なかったら元気なのかなと、そういうところで皆が気にかけるような状況をつくれるといいので書かせていただきました。こういった講座を充実させていただけるなら、若い方も興味を持てるようなものを考えていただければと思います、提案させていただきます。

市民生活部長：バスの関係ですが、できるものがあればやっていかななくてはいけないのかなということです、地元の皆さんとまた協議をさせていただいて、そこは検討していきたいと思います。

教育次長：講座の充実ということで、先ほども少し触れたのですが、公民館でやる講座というと、少しかたい感じがして、なかなか集まってもらえないというパターンがあるのですが、来てもらっている方については、アンケート調査などをして、こんな講座がいいのではないかという要望もいただいております。若い人向けとか、高齢者向けとか、その辺は公民館のほうでも考えてやっています。ご提案いただいたということで、さらに考えさせていただきます。例えば、今年度の絵手紙は、年間とおして10回ほどやる講座だったりしますので、高齢の方にも来ていただいている、今日は見えないねなんて言うのと、見守り活動にもつながるといことは、再確認させていただきましたので、講座も重要ななということを認識しながら取り組ませていただきます。

参加者：大体高齢者の対策で、私の住んでいるところは、高齢化集落の上の平です。シカとサルと同居しております。シカが周りに9頭住んでおります。昼間でも何度も出ています。でも、植物を食べられてしまいますので、それが可愛くないところです。私も独居老人なものですから、見ていただくほうなのですが、貯筋アップ体操を上平で4月から独自に始めました。というのは、中央に出て来られないのです。私の車は5人しか乗れませんので、集まる人が6、7人いますので地区で始めました。とても喜んで楽しみにその日は出て来られて、家から出なかった人も出てきて、おしゃべりも楽しみにしております。私自身、責任を持ってやるのは大変なのですが続けていきたいと思っております。市が行うべきことで書いたのは、足尾は古河の所有物とか土地がとても多いので、使わせてもらいたいと思って難しいのです。足尾銅山観光のそばの花木センターの跡とか、通洞の生協の跡が戸閉になっていますが、そこは足尾で一番いい場所で、観光客もよく通るので、あそこを何とかま

ちのために使わせてもらえたらなと前から思っていたのです。生協は戸閉になってしまいましたが、そこで生鮮食品というよりも、足尾で日用品を買えるところがなくなりましたので、そういう買い物ができるように、そういう物を置けたらいいなと思います。そこは集まりやすい場所なので、他の地区から出てきたときに、一服休める場所、お茶を飲める場所に使えたらということと、土日は今市から講師が来てくださって、結構皆さんそば打ちをしています。出せるぐらいの腕になっておりますので、土日におそばを提供できたら観光客の方も喜ばれるのではないかと思います。そういうことに利用できたらうれしいと思います。それから足尾中学校の生徒たちが、イチゴの栽培を始めました。いずれ、それが成功していても、子供はだんだん減っていきます。それで終わりにしたのでは、せっかく努力しても無駄になるので、花木センターを利用させていただいて、それを、だんだん高齢者がイチゴの栽培をできたら生きがいができますし、そこで、将来イチゴの栽培ができれば、まちにとってもいいのではないかと思いますので、場所を市のほうで何とかお願いできたらと思います。今、古河は住宅をいくつか壊しています。子供たちがイチゴを作っているという話を聞いているから、壊さないでおきますという返答をもらいましたということで、良かったなと思いましたが、古河の土地であり古河の建物なので、古河の所長さんが生協を閉めたので、市のほうに何百万か寄付されたと広報に載っておりましたが、そういうことで、あそこを利用させていただくようにできないものかと思っております。

市長：やはり企業が心配しているのは、誰が責任を持って管理したり、運営するのかということではないかと思います。市として建物や土地を持つにしても、なかなか難しい問題です。個人では難しいと思うので、組織をたちあげて検討を進めていただくという話になるのかなと思います。

参加者：動物による被害で、花とか畑を荒らされてしまうと書きましたが、今日も家のほうでサルが大量に出まして、花火を鳴らしました。花火を鳴らすと逃げるのですが、また時間が経つと出てきます。一応、また夕方に鳴らすのですが、シカやサルとかは本当に多いので、家の周りの農作物も網を張ったり、電気柵をやっているところもあります。高齢者が多いので畑を作っている方が少なくなってきました。そういう空いている畑などを利用して、皆で作物を作ったり、花を植えたりして、高齢者の方たちとか私たちが交えて皆で何かを作るという楽しみを持つのも、いいのではないかなと思うのです。家だけでやるというのも、なかなか大変ですし、跡継ぎがないというところもありますので、空いている土地というのもあると思いますので、そういうところを利用して、皆で農作物や花を作るとかできればと思います。日光はブルーベリー栽培に適していると聞いているので、足尾でもそういうのができれば、皆で育てて摘み売るという楽しみもできるのではないかなというのがありました。何をやるにも足尾は交通が不便というのが最初に上がってくるので、そこもどうにか皆でできればと思います。地区ごとの土地活用でもいいので、そこで皆で何かを作って、皆で集まって楽しむということができればいいなと思っています。私も家の近所で、まだ高齢者には早いかなという年齢の人たち数人と、山へ遊びに行ったりとか会話をしているので、それをどんどん広めていって、高齢者や若い世代の方も交えて、皆で集まっ

て楽しみを作っていきたいと思っています。

市長：素晴らしい事業だと思います。是非、実施していただけたらと思います。シカやサル対策の電気柵などについては、市の助成制度がありますので、市としても支援できると思います。来年は、このあたりにブルーベリーができているかもしれませんね。期待しております。

参加者：見守りの1番の防災無線の活用の仕方なのですが、新しくしていただいてありがたいのですが、5月に宇都宮市塙田で盗難事件がありまして、防災無線でお知らせがあったのですが、中間報告や結果報告が尻切れトンボになってしまっているのです。この危機管理はどうなっているのかなと、他の地区からもおそらく出ていると思うのですが、この辺はきちんとフォローしていただきたいというお願いです。あと、昔の足尾町時代は、地域のイベントとかテレビの放映とか、皆が元気になるような放送もされていたのですが、今は駄目なようなことを聞いているのですが、それも復活していただきたいと思っています。あと、言いたいのは交通関係なのですが、自分たちができることということで、足尾の社会福祉協議会や民生委員や更生保護女性部などのいろいろな団体があるのですが、そういう団体が連携を図って、方向を一緒にするというのは、社会福祉協議会の担当者の方も話しておりましたので、そういうことを足尾全体で考えて、私たちがやることはベクトルを一緒にすることが必要だと思っています。あと、市営バスのあり方なのですが、日光市のほうに何でもかんでも頼むということではなくて、オンデマンドや、ドライブシェアリングというのは世界的で、これが法制化するかどうかわかりませんが、足尾の現状としては、このドライブシェアリングというのは、ドア・ツー・ドアに一番鑑みて高齢者対策になるのかなと思います。ただし、日光～足尾間のバスはとても必要なもので、運行関係を考えていただきたいのと、大きなバスはいらないので小型でいいと思います。実際、地域審議会のときに、日光～足尾間はボンネットバスをずっと要求していたのですが、実際きたのが普通のバスだったものですから、とてもがっかりしています。

行政経営部長：5月23日に宇都宮市で起きた強盗事件の件ですが、非常にマイナーな事例だったのです。警察のほうから注意喚起をしてくれという意向があって放送したのですが、そのあと3名を確保したという情報が入ったのですが、それ以外にも仲間がいるのではないかと、警察もまだ自供をとっていない段階だったので、結果的に不安が残ってしまったということは、うちのほうとしては深く反省をしなければと考えております。今後、警察と協議しながら、こういった件に関しては対応していきたいと思っています。それと2点目のイベントやテレビ放映を、防災行政無線でお知らせできないかということですが、今までの足尾地域ではそういったものを流していたと思います。ただ、今年今市地域と栗山地域に整備をしておりますので、統一した運用規定、今市は初めてなのでチャイムを鳴らしただけでもうるさいという可能性があるものですから、地域独自で運用規定をつくるか、全体的な運用規定をつくるかということは、今後、地域の皆さんも含めまして検討していくことが必要かと思っています。

市民生活部長：ドライブシェアリングというお話がありましたが、ライドシェアリングというものだと思います。この件につきましては、今、日本の中では試験段階のようでして、将来的にはこういったものが活用されていくのではないかと思います。ご提案いただきました3番目の皆さんの力で、まずは解決策を見出すというのが一番いいのではないかと思います。社会福祉協議会などの団体で考えているとおっしゃいましたが、そういった中から見出すのが、一番地域に合ったものが見つかるのではないかと思いますという感じを受けております。

参加者：日光市の防災メールというのは、職員の方全員が登録されていますか。先ほどの事件のときに、日光警察署のほうから防災メールが入って、私は山の中に仕事で行かなければならなかったもので、足尾行政センターに問い合わせをし、これはどうなのですかと聞いたら、知らないと言われてしまいました。

副市長：防災メールは正直なところ、職員は任意の加入です。職員の管理監督をするのは私の責任ですので、こういう話を足尾でいただきましたということを徹底して、全ての職員が登録するように周知します。

参加者：バスを使って買い物に行くとか、そういうことももちろん必要なのですが、お年寄り一人で食材を買って食事を作るというのは、女性の立場からしますと、主人や子供がいるときは力が入りまして食事は作ります。でも、会議とかでいないというと、あるものでいいかという食生活をしてしまいます。足尾には、食生活推進委員会というのがあります。そういう団体を使いまして、前に社会福祉協議会でやっていた行事なのですが、地域ごとにお弁当を一軒一軒配ると、見守りもできるし、お年寄りもそういう日には玄関で待ってくださるのです。社会福祉協議会だとハードルが高いのかなと思います。食事関係ですので、検便とかしないといけないですし、私が入っていたときには、個人の車で配達してはいたのですが、栄養士さんのお力添えで献立を立ててくださって、月1,2回ペースでお年寄り宅に訪問して、お弁当を届ける事業を、母体はありますので復活させていただきたいと思えます。

市長：社会福祉協議会で実施して欲しいということですか。

参加者：私が所属していたときには、社会福祉協議会のほうでお弁当事業をやっていたのです。他の地域もやっていると思います。ただ、民間の作るお弁当とおばちゃんたちが作るお弁当というのは、やはり味も違いますし、知っている人たちが作るもので、地域の見守りにもなるので、そういう面からしてもどうかなあと思います。食品を扱っているので検便をしなければいけないのですが、ボランティア団体なので、その費用をどこから捻出するかということになりますので、できれば市のお力添えをお願いしたいと思えます。

市長：大沢地区では社協で実施していますので、地区社会福祉協議会に提案してみたらいかがですか。

参加者：地区の社会福祉協議会でも1回やったのですが、やはり車の配置や諸費用の件で、今のところ断念している状況です。

市長：今すぐに回答できなくて申し訳ありませんが、要望として伺わせていただきます。

参加者：私は高齢化集落の南部地区ということで、市のほうでやっていただいている足尾行政センター巡回相談が実施されております。また、交通支援事業ということで、今後とも両方継続してってもらいたいと思います。原向からまち場までタクシーだと2,000円かかりますので、この支援事業を引き続きお願いしたいと思います。その下に買い物ツアー実施と書きましたが、中心部ではなく南部地区とか店がないようなところでしてもらえればと思います。統計では、自家用車等でやっているのですが、早急にやってもらいたいということではなくて、やる時期にきているのではないかと思います。見守りや集う場所、交通手段というのは、どうしても近所の方の力が必要だと思います。副市長が言われたように、ある程度は自分たちでやれるようなことを考えたほうがいいのではないかとということで、自分たちでできるようなことを4自治会で考えて対応したいと思います。

地域振興部長：高齢化集落対策の中で、巡回相談や健康教室、全体交流会などを実施しており、また、日常生活交通支援事業についても継続していくことを考えております。三依地区のある自治会長さんからも、目新しいメニューを次から次へと見出すのではなく、今やっていることを地道に継続することが大事なのではと、ご教示をいただいたこともありまして、そういう取組を持続してまいります。

参加者：私は通洞なのですが、老人の方たちで組織するあゆみの会というのがありまして、自治会としては大いに助けていただいております。先日行いました地区の草刈清掃などは、自治会よりもそういう方々が中心にやっていただきました。ただ、会のほうの会員がだいぶ少なくなってきておりますので、高齢者の集まりに私も積極的に出て入会を呼びかけたいと思います。これは私たちの課題だと思っております。市に対する要望として、この会の方からいくつか聞いております。話が重なりますが、何かものを作ったり花を育てている方が、サルやシカに荒らされてがっかりしているのは、よく聞いております。どこまで要望が通るのか考えたことがないのですが、具体的に聞いてご相談したいと思っております。

市長：市の支援が必要な部分については、担当部署にご相談いただければと思います。

参加者：2つ市のほうにお願いしたいことがあります。1点は、自治会や社会福祉協議会、近隣の方の見守りで、お年寄りが快適な生活を送っていますが、5月23日の事件の件で防災無線がよく聞こえないので、不安だという方が何人か、民生委員の私のところにお電話をくださいました。それで、独居の方皆さんに電話を差し上げて、事態を周知し戸締りを依頼しました。そのために防災無線を各自治会にくださると助かるのですが、いかがでしょうか。もう

1点は、集う場所で貯筋アップあかがねというものを、4月4日から開始しまして、6月13日までに11回行いました。内訳は463人、平均42人の方が参加しまして、とても交流を深めております。当初のねらいというか目算したのは、せいぜい20、30人かなと思っていたのですが、平均して42人で、10回来るとスタンプを押しまして、こういったおもりを貯筋アップのときに差し上げているのです。ただ、当初の人数よりも多くなってしまったので、10個なり、20個なりで1セットもらえるところが、予算がないために1つを右に付けたり、左に付けたりしているのです。市も財政的に大変でしょうが、社会福祉協議会のほうに少し支援助成をお願いしたいと思ひまして、今日お願いに参りました。

市長：1個いくらするのですか。

参加者：200円くらいだと思います。1セットで400円弱くらいです。とても好評でお年寄りの励みになっております。50人分ぐらいいただければと思います。地区の社会福祉協議会が発起人で、一般の方が立ち上げました。地区の社会福祉協議会からお金が少し出ています。

行政経営部長：防災無線の戸別受信機の無償貸与についてですが、民生委員の方にはお渡ししていると思います。それ以外に各自治会に5台ずつお渡ししております。あと消防団のほうにお渡ししております。今後は警察署とか保育園とかは、これから貸与する予定になっております。とりあえず、自治会と民生委員、消防団のほうには、今市など含めまして配付は終了しております。今後は、それ以外の施設等に設置する予定でありますので、そちらは情報を密にさせていただいて、不安などの解消に使っていただければと思います。

参加者：課題・解決策というのはあまり思いつかないのですが、自分たちができることは、地域の高齢者に声を掛けて、見守っていくというようなことしかできないかと思っております。市のほうへお願いとしまして、買い物する場所が減少しているのが現実で、月に1~2回公共のマイクロバスを使って、希望者をスーパーなどに連れて行くシステムができればいいなと思います。公共のバスと言いましても、保育園などで使っているバスの空いている時間にお借りするとか、そのような感じでできないかなと考えました。町全体で結束していくことだと思ひます。

地域振興部長：足尾は三養会が廃止になり地域の商店が少なくなったことは否めませんが、実際には地域内に数店舗の商店があり、行政が大々的に買い物限定の事業展開をするというのは、難しいといえます。買い物ツアーに関しては、栗山地域や三依地区において、月1回などと決めて、買い物ツアーを実施しています。ただし、買い物ツアーと銘打っていますが、実際にはとにかく引きこもりがちな高齢者の方などを少し遠出の遠足感覚で家から連れ出す、いわゆる生きがいづくりのためにやっているということなので、買い物や交通の問題とは切り離して考えているところです。実は、そういった背景があるため、足尾地域では市が直接的にやっていないのですが、社会福祉協議会のほうが今年度事業企画をしております。目的は、先程申したとおり、引きこもりがちな方に、買い物と外出の機会の場を設けてあげ

ましようということで、心身のリフレッシュが目的なのですが、あかがねかもしか号となるようです。詳しくはわかりませんが、8月から19回、行先は今市方面になるとのことです。あくまで民間の商店さんを圧迫せず、すきま埋めの形でやらせていただく予定と聞いております。

参加者：今日のテーマからずれてしまうかもしれませんが、今、少子化という話が世の中で出ていますが、産婦人科の数がこの辺は少なく、近くても今市の星野レディースクリニック、でも分娩施設がありません。もう少し遠くの亀森レディースクリニックが一番近いところになるのですが、出産ということになると、検診に行くにもリスクが高くなるということもあると思うのです。今まで市民病院に産婦人科がありましたが、無くなってしまったというのがあります。なかなか厳しい状況かなと思ったのと、中禅寺湖近辺に住んでいる若い方が出産したいといっても、市民病院の産婦人科がなくなってしまったという影響で、そういう考えが生まれないと少し聞いたことがあります。今、そういう声が上がっているかどうかまでわからないのですが、今後、できれば市民病院があったあたりに産婦人科があったら、少子化対策にもつながるのではないかと思ったので、ご検討いただければと思いました。

市長：今、産婦人科のお医者さんも少なく、少子化が悪いほうに回転してしまっていると思います。産婦人科を増やすのは難しい状況ですが、今の1軒をなんとか守っていきたいと思います。

参加者：地域振興部長に聞きたいことがあるのですが、地域振興資金で今、9地区でいただいているのですが、足尾に280万円いただいて平成30年度もということなのですが、その後も続くのでしょうか。足尾はやることがたくさんあるので、ぜひ続けていただきたいのと、他の地域でそんなに要望がないようであれば、たくさん要望があるところに割り振っていただけるような考えはありますか。

地域振興部長：イチゴの水耕栽培や、足尾まちなか写真館などの事業は基金を利用してやっているものです。財政事情が許す範囲で予算要求をしてまいりたいと思います。